

平成 24 年度

第 13 回米子市水道事業審議会 会議録

○開催日時 平成 24 年 11 月 30 日(金)午後 1 時 30 分～午後 3 時

○開催場所 米子市水道局大会議室

○出席者

委員 (敬称略) : 住田篤美・大西喜久子・藤江敏子・櫻田恭一
前田香代子・小林幸子・小椋あけみ
和田季子・石倉恵子・中嶋紀恵

欠席者 : 矢野孝雄・野田親弘・松田葉子

米子市水道局 : 植田水道事業管理者・森上副局長兼総務課長
大縄次長兼計画課長・山中次長兼境港営業所長
小野川次長兼営業課長・藤井水質管理課長
江原浄水課長・八幡施設課長・松田給水維持課長
仲田主査兼給水維持課給水係長・森井主査
兼営業課料金係長・金田総務課課長補佐兼会計
係長・湯崎総務課主幹・事務局

○日程

1 議題

- (1) 平成 23 年度米子市水道事業会計決算状況について
- (2) 新配水池設置事業の中間報告について

2 その他

○公開又は非公開の別
公開

○傍聴者数 (報道関係者を除く)
0 人

○会議資料の有無
有り

○お問合せ先
米子市水道局計画課企画調査係（TEL.0859-32-6112）

1 議題（議題の概要及び質疑）

（1）平成23年度米子市水道事業会計決算状況について

＜案件説明：金田総務課課長補佐兼会計係長＞

平成23年度米子市水道事業会計決算報告書について

平成23年度決算について報告する。

初めに、水道料金を主な収入源とし、人件費、ポンプを動かす動力費等のように、単年度における経営状況を示す収益的収支であるが、収入決算額3,381,876,707円で、前年度に比較して、約1億4千7百万円の減収となっている。主な要因としては、給水収益が前年度に比較して、約1億1千万円（率-3.6%）の減収となっており、ここ近年の減少傾向の中で前年度（22年度）は、夏の猛暑と正月前後の豪雪の影響もありマイナス幅が大きくなっている。

一方支出については、決算額3,036,190,942円で、企業債の支払利息、受託工事費等の減少により、前年度に比較して約9百万円弱の減となっている。

この結果、純利益314,433,949円、前年度に比べ、約1億3千3百万円の減となった。

次に、企業債、補助金等を収入源とし、配水管・取水施設等の更新などの経費を表す資本的収支について。

収入決算額は655,937,311円となった。

主なものとして、老朽管更新、河岡水源地の井戸更新及び配水池設置事業等により、企業債を約4億4千万円借入れた。また国庫補助として老朽管更新及び重要給水施設配水管布設事業等に伴い、約3千5百万円の収入となっている。

支出については、決算額1,864,547,131円である。

主なものとしては、建設改良費に約8億9千万円、企業債償還金に約9億7千万円を支出した。

資本的収入と支出の差の不足額については、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、損益勘定留保資金、水源涵養林取得積立金及び繰越利益剰余金で補填している。

これらの結果、翌年度に繰り越す繰越利益剰余金は、前年度より約5千7百万円多い、859,053,292円を繰り越すこととしている。

地方公営企業会計制度の見直しについて

最後に一点報告させていただくが、資料の5ページから6ページにかけて掲載している「平成23年度米子市水道事業剰余金計算書」だが、昨年度の資料と見比べていただくとご理解いただけると思うが、書式を変更した。

これはこのたび、地方公営企業会計制度が昭和41年以来46年ぶりに改正となり、一部本年度から施行されたことによる。

改正された会計制度が大きく影響するのは、平成26年度の予算・決算からとなるので、来年度の審議会ではより詳しく説明するが、本日は改正の経緯だけ報告させていただく。民間の企業会計基準は国際基準を踏まえてこれまで見直されている一方、先ほど述べたように、地方公営企業会計制度は昭和41年以来改正されていない。

米子市水道局も公営企業であるため、相互の比較分析を容易にする必要（病院・バス事業等）があり、また地域主権改革が言われている現在、それに沿って事業の経営実態がより見えるという形に見直した。

個々の事業体が経営の実態をより正確に把握し、それに基づいて個々の経営戦略を立て、その戦略を主体的に実行できるようにすることとなっている。このことは、一方で住民の皆様や議会においても経営の実態が理解しやすくチェックできるようにとの主旨で改正されたものである。

以上報告とさせていただきます。

質疑応答

【住田委員】毎年監査しているが経営状態が良く、努力されているなど感じている。

【藤江委員】給水収益が下がってきている中で、局として大口需要家である企業に対して、もっと水道を使用してもらうような働きかけなどを23年度に行っているか。

【森上副局長】23年度は行っていないが、以前には大口需要家に対して管理職が訪問してお願いしたことがある。

【植田管理者】大口需要家ということでは、日本高度紙が操業開始したが井戸を掘って自己水源を確保するようである。

【小椋委員】日本全国での現状はどうか。米子市と同規模の類似の水道事業体の経営状態を調査して比較し参考にしているか。

【植田管理者】調査した中では、各事業体のどこもが同じような状況であった。

【櫻田委員】単年度の利益率をどの位に設定しているか。

【金田補佐】率ではなく金額の目安で純利益が2～3億円となる様、予算編成をしている。

【大縄次長】水道ビジョン10ヵ年基本計画を含めた長期スパンで考えている。

【大西委員】費用の軽減のために様々な努力をしていると思うが、例えばどのような取り組みをしているのか。

【大縄次長】庁舎と車尾水源地の二つに分かれていた受電契約を一つにまとめて契約して経営努力に務めた。

【植田管理者】平成32年度までは料金値上げをしない考えである。

(2) 新配水池事業の中間報告について

< 案件説明：八幡施設課長 >

用地測量及び地籍調査について

先ず用地測量及び地籍調査の業務については、㈱ワーパスが落札し調査を行った。当初は平成24年6月15日を工期としていたが、作業を進めているうちに、より詳細な調査を行う必要が出てきたため、工期を約1ヶ月延期し今年の7月27日に完了した。

用地取得に係る説明会について

次に用地取得に係わる説明会について。用地測量完了後には、配水池予定地の土地を購入する必要があったため、土地の評価額の算定を「本池不動産鑑定事務所」に依頼した。鑑定の結果、現在の市場相場からすると、1平方メートル当たり1,500円から1,700円という鑑定結果を受けたため、その結果を基に説明会に臨んだ。

平成24年7月21日(土)に観音寺新町の観音寺公民館において第1回の説明会を開催し、水道局として買取額1,500円を提示した。買取額については、土地の評価額の算出を依頼した「本池鑑定士」に詳しい説明をしてもらったが、提示額に対して地権者の方からこの場で直ぐに答えを出すのは難しく、考える時間が欲しいという要望があったので日を改めることとした。

8月1日(水)に2回目の交渉を行った。10年以上前にバイパス工事が行われた際の買取額である1平方メートルあたり5,500円を持ちだされ、安すぎる！の一点張りで中々交渉にならなかった。現在の市場価格は10年前と比較し8割減という実情を、理屈では分かって

いても中々承知いただくことができなかった。

このままでは進捗が無いと判断し、逆に地権者の方から要望額を伺ったが提示額とはかけ離れた額ばかりであったため、その場で相談してもらふことにした。その間我々は暫く席を外し地権者の皆さんで協議された結果、200円増の1,700円という金額でまとまり提示を受けたので、我々も一旦水道局へ持ち帰り、協議してから回答することとした。その席上でこれ以降の交渉については、観音寺総合区の区長さんと車尾村中の代表者の2名の方に一任することが決まった。

8月8日(水)に水道局にて、観音寺総合区・車尾村中の代表者2名と協議を行った。水道局としても事前に妥結額の協議を行っており1,700円で妥結するが、これ以上の増額は絶対に出来ないという約束で代表者から内諾をいただいた。しかし、提示額については自分たちが地権者に伝えるのではなく、水道局から再度提示してほしいというお願いがあったため、8月29日に最後の説明会を設定した。

8月29日(水)に第3回説明会を開催したが、交渉も最終ということで植田水道事業管理者同席のもと最終買取額の提示を行い、ようやく妥結に至った。

用地面積及び買取額について

引き続き「用地関係」になるが、別紙図面を参照いただきたい。

施工地面積 48,776.53 m²が赤い線で囲んだ枠の中の面積。買取面積47,073.46 m²は左の赤の網掛けを除いた面積。所管換面積1,703.07 m²は赤の網掛けの面積だが、元々米子市の名義になっていたものを、水道局の名義に変更しただけであり費用は発生していない。

買取額の97,071,333円については、土地の購入が90,810,553円、立木補償が6,260,780円という内訳である。

本体及び造成工事について

次に「配水池本体及び造成工事」について報告する。

造成工事については現在計画推進室の職員が設計中であり、12月を目途に発注できるように準備を進めている。現状で事業費削減の検討やそれに伴う見積りの再要請を行っているが、見積り先の回答に時間がかかるため遅れ気味で、12月ぎりぎりか場合によっては1月に中旬にずれ込む場合も考えられる。

ステンレス製配水池本体についても現在設計中で、造成工事発注後、準備が整い次第発注する予定である。

「法勝寺川水管橋」配り直した図面をご覧いただきたい。

水管橋の詳細設計委託業務は、(株)ウエスコが落札しており、工期は平成24年5月25日から平成24年12月21日で、現在詳細設計

を行っている最中である。県道部分は送水管 400mm と 800mm、配水管の 400mm の耐震型ダクタイル鋳鉄管を 90m 布設する。工事については米子ガス産業(株)が落札し請負施工中である。本工事は県道の改良工事が行われる前に水道管を埋設する工事で、平成 25 年 3 月 15 日までに完了する予定である。

水管橋の位置については、前年度に既に了解を得ているが、設置位置以外は国土交通省中国地方整備局「日野川河川事務所」と継続協議中である。国交省の許可が下り次第発注する予定で準備を進めているが、現状の進捗状況は既に 9 割以上協議が完了している状況で、あと一歩というところまで来ている。

埋蔵文化財発掘調査について

最後に「埋蔵文化財発掘調査」について。

対象面積は 6,700 m²、調査期間は、平成 25 年 4 月～12 月の間に調査は財団法人米子市教育文化事業団が行う。これに掛かる調査費用だが、合計で約 93,240,000 円とほぼ 1 億円近い費用が必要になった。当初は遺跡の発掘を先に済ませ、その後間髪いれずに土木工事を行う予定だったが、米子市文化課と再協議した結果、土木工事に合わせて発掘を行う段取りに変更した。ただしこのことで本工事の工期が遅れたりすることはない。

以上経過報告とさせていただくので、ご審議いただきたい。

質疑応答

- 【前田委員】 用地取得額と比較して遺跡調査費用が高すぎないか。
- 【八幡課長】 調査費は米子市が負担したが、本掘削は原因者の負担となる。予算的にも当初から 1 億円を計上していた。費用については正式な見積もりを拝見して改めて高いと感じた。
- 【住田委員】 遺跡調査には時間も費用もうんとかかることは、自分も経験上実感している。
- 【大西委員】 上限額の 1,700 円で交渉がまとまりほっとされたことと思う。仮に用地交渉がまとまらなかった場合はどうする考えをもっていたのか。
- 【八幡課長】 当然住民の皆さんの同意をいただくまで粘り強く交渉する予定であった。強制執行して住民感情を逆なですれば、今後の水道事業に及ぼす影響が大きすぎると考えていたので、どうしても同意が得られない場合は勇気ある撤退も考えていた。
- 【和田委員】 地権者への説明会以外で周辺住民への説明はなかったか。

【八幡課長】今回は地権者のみを対象とした説明会で、住民の皆さんへの説明会はその前に行っており同意を得ている。

2 その他

【大縄次長】審議会の審議事案ではないが、水道局の事業として今年度から米子市工業用水道事業を行っているので報告する。

(質疑なし)

【鷺見係長】事前に送付した資料の中の今年度の「水道ニュース」をご覧になってお気づきのだと思いが、今年度パッキン☆マンというPRキャラクターをデビューさせた。パッキン☆マンについて説明する時間をいただきたい。

局内には職員で構成する委員会がいくつかあり、その中の一つPR推進委員会が昨年企画を立ち上げた。

局内で米子市水道局のキャッチコピーと、キャラクターのアイデアを公募、キャッチコピーはPR推進委員会を選出し「いい水、いい一日。」に決定。キャラクターは応募された中から局内で投票を行い決定した。ネーミングも同様に局内で公募、投票の結果「パッキン☆マン」と名付けられた。

今年の水道週間初日の6月1日に着ぐるみのお披露目式を行うと同時に、パッキン☆マンをあしらったラッピングフィルムの施工をした公用車10台も併せて披露した。夏季略装のポロシャツにもパッキン☆マンがデザインされている。

お披露目後の主な活用としては、6月1日のお披露目後の最初の任務として一日水道局長。山陰四市水道職員交歓球技大会での始球式、現在は主に水道局に見学を訪れた小学生の見送りを行っている。先月10月21日から22日にかけて開催された、鳥取県主催の第7回ゆるキャラカップ in 鳥取砂丘に参加。来年「広報よなご・市報さかいみなど・広報ひえづ」の各誌1月号に水道管の凍結防止の啓発の4コマまんがを掲載する予定である。

本日は実際に着ぐるみを準備したので、ご覧いただきたい。

(パッキン☆マン着ぐるみ入場) 委員一同拍手。

この着ぐるみはエアー着ぐるみというタイプで内部にある15Wの送風機2台で本体内に空気を送り込んで膨らませる

仕組みになっており、12Vの密閉型バッテリーによって約90分間の連続使用が可能となっている。

【住田委員】これは良いものを作られたと思う。子供たちもよろこぶのではないか。

(着ぐるみ退場)

【大西委員】水道ニュースの記事によると、水道週間の講演の中で講師の方(鳥取大学医学部講師・医学博士 祝部大輔氏)が水道水の方がミネラルウォーターより検査項目が多く安全と言われている。このことをもっと広くPRしてはどうか。

学校では水質に不安があり、児童がお茶を持参して学校で水道の水を飲まない現状があるが。

【松田課長】昨年度ではあるが、米子市の水道水の安全性と美味しさをPRする目的で、東山競技場横に水飲み場を新しく開設した。運動後の市民などに活用していただいている。

【大縄次長】学校には高架水槽と受水槽という二つの水槽がある。このうち高架水槽を廃止してできるだけ新鮮な水道水を供給できるようにと、教育委員会も取り組んでおられる。

【和田委員】水道週間の講演会については、外部から講師を招いて開催されているようだが、職員のための講演会なのか。

【大縄次長】職員向けの講演会である。

【和田委員】興味があるので、参加してみたい。

【大縄次長】次回の開催時にはお知らせする。

【小林委員】水道局でどの様な事が行われているか大変よく分かる。今後も水道ニュースを送っていただきたい。